

支那事変と

ユダヤ民族

北海國民道場



貞四郎著

支那事変と

ユダヤ民族

北海國民道場





者著ノ近最

郎 四 貞 林



序

今次の支那事變は支那を通じての經濟的英國と思想的ソ聯との戦へである事は今や常識化されて誰れしもよく知るところである。

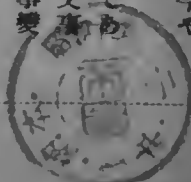
今日此の事變を色々の角度から視る事が出来る。例へば白色有色の民族的戦争であるとか或は文化的見地より視るならば世界的第三創造文化の建設であるとか更に又事變の背後關係にユダヤ人、ユダヤ財閥が糸を引へてゐるとか單的に言ふならば、事變はユダヤ民族が起させたものであると考察する事が出来る。

今著者は特に支那事變とユダヤ民族の關係に就へて雜書であるが、此の一小誌を世に出し多少なり共得る點があれば幸甚とするところであり著者宛に批判を願へばより感謝する次第である。

昭和十四年二月十一日の建國祭に……………

北海國民道場塾頭
北海國民新聞社々長
小樽市會議員

林 貞 四 郎



一、ユダヤ民族の概念 一

1. ユダヤ民族の發生
2. ユダヤ民族は何千万か
3. 世界の何處の國に一番住んでるか
4. ユダヤ人が日本に何人住んでるか

二、日露戦争とユダヤ人 五

1. 日本の戦債はユダヤ人が引受けたか
2. ユダヤ國際財閥は如何に動いたか
3. 戦争を豫言してゐた
4. 戦争裏のユダヤ人

三、ユダヤ人化の國際聯盟 九

1. 國際聯盟はいつ出来たか
2. 實權は何處にある
3. 國際聯盟の組織は如何

四、ソ聯の實權を占めるユダヤ人 一七

1. ソ聯の各委員會の内容
2. 露西亞革命とユダヤ人

五、支那に於けるユダヤ人の暗躍

三〇

3. ソ聯主腦部の全貌
4. ソ聯代表の大公使はユダヤ人か
1. ユダヤ人は支那で何をした
2. サツスン財閥は如何
3. 支那の通信網はユダヤ化
4. 支那でユダヤ財閥は如何に躍るか

六、世界線上のユダヤ人

三一

1. 政治家
2. 學者
3. 財閥
4. 化學者
5. 其他

七、支那事變に對する國民的眞使命

三二

1. 聖戰目的は何か
2. 新東亞協同体とは何か
3. 亞細亞の新秩序の建設



一、ユダヤ民族の概念

今次の支那事變は單なる支那と日本の戦ではない、支那を通じてのソ聯の赤化侵略政策に基く抗日人民戦線と、支那を通じての英國の帝國主義侵略政策に基く植民地資本との二勢力の合体による蔣介石政權の利用の抗日戦である。

而しながら我日本は、皇道の對支宣布皇國日本の國家使命達成の確立であり。日支の真正なる提携による東洋新文化の建設、東洋平和の確立である。然して日支共存同榮の道義世界の確立でなければならぬ。

而して此の支那事變を異つた面より監視、検討するならば、其の背後に英國ソ聯を操縦せしめてゐるユダヤ民族の暗躍をみのがす事は絶対に出来ない、こゝに於てユダヤ民族の概念を述べてみたいと思ふ。

ユダヤ人問題は非常に舊い歴史をもつた問題である。此れは一つ獨逸一國の問題に止まらず、今や世界の重大な問題と云はなければならない。

ユダヤ民族の發生は何處かと云ふに、アラビヤ沙漠北部の豐饒な地方に發生したと云はれ、セミツト族を原種族としその生活手段は牧畜であつて水草を追ふて移住する所謂遊牧民族であつたことは後年彼等ユダク民族が世界を跨にかけて徹底したインクアナシヨナリストであり一國に固定することなく何處へでも流れ、同時に彼等の人口の繁殖力は非常に強大なもので北方チグリス河の流域にまで迫り。一部は上流地方へ、一部は川下つてベルシャ灣に流れ、アモレアン民族と雜婚し一方またヒツチー族と混血しここに、セミツト族、ヒツチー族アモレアン族の混血融合が遂にイスラエル民族を形成したのである。

彼等はこの三種族の統合によつて其の優秀なる各種族の特質を吸収して長短相揃ひ、その後は他民族との混血を忌避して極力自己民族の血液の純化を成就し、他民族は不純血で自己民族は純血族を誇稱してゐる。故に今日尙純血族の踏襲されて、男兒が生れると八日目に割禮を行ふ。割禮とは包茎切開を云ふのである。

而しながら其の後各國に於ける政治的、宗教的壓迫の爲に心ならずも雜婚し、改宗する者もあるが今日なほユダヤ民族はその純血を誇りとしてゐる。それはさてをき、ユーフラテス上流に向へる

一團はカナン即ち今のパレスタインの地に住むでここにイスラエル國を作るに至つた。而して彼等は自己の歴史を五千六百九十八年と誇るがそれは我國の如く一貫充實した歴史でなく或る時はイスラエル國とユダヤ國に分れ或るいは全部エジプトに因はれの身となつたり、又はバビロニアに捕虜となり幾多亡國の道を辿り、凡ゆる難業苦業をしたもので一貫した獨立國家を持続したのではない西曆紀元前五世紀の頃、再びカナンの地に還つたのであるが其の後獨立を失ひ半獨立國となり、昔日のソロモンの榮華の再現を企圖し、何人かの豫言者が現はれたがすべて空しく、遂にキリストがナザレに生れ彼等は之を渴信しキリストに依る民族の獨立を企圖したのであるが、キリストは逆にユダヤ教の偏狹なる點を排撃した、そこで彼等の憤激はキリストを宗教革命家として磔刑に處して仕舞つた。

而してキリスト紀元七十年更に獨立を圖てたがローマの爲に彈壓されエルサレムの回復を圖つたが亦遂に一敗地にまみれ數十万の死傷者を出し、遂にエルサレム居住權を失つて遂に彼等ユダヤ民族は放浪生活を營むほかなくなつたのである。

今日世界に居住するユダヤ民族はどれ程の数かと言ふに、これはユダヤ問題の研究家でも、専門

家でも明確な答は出来ないと言はれてゐるが、彼等の統計では一千五百四十五万と言つてゐる。世界の人口に比するならば實に微々たるものである併し是は純血ユダヤ人であつて彼らの非常な努力に拘らず自然に雜婚し混血する者が多くこれ等を合体すると約五千万と言はれてゐる。

而して一千五百四十五万の純血族の分布状態を調べてみる其の第一はアメリカ合衆國の四百万人、第二位がポーランドの三百七十万、第三位がソヴェートの三百万人、第四位がルーマニアの百万人、第五位がドイツの六十万人と言はれてゐるが、今日のナチス、ドイツ時代に至つては國外追放者が多くなつたが未だに大部分は居住してゐる。次がイギリスの三十万、更にフランスの二十万とイタリーの五万と言はれてゐる。

更に東洋に於ては如何なる状態かと言ふに、日本に一千人、支那に五千人、滿洲國に一万と言はれてゐる。殊に支那在住のユダヤ人は支那の經濟を左右してゐたものであり、支那に居住する英米佛の大部分はユダヤ人なりと言つても過言ではない状態である。

此れ等のユダヤ民族が蛇の如き民族意識をもつて支那の財界即ち經濟機關である浙江財閥を支配し來つたものである。その代表的ユダヤ財閥として、上海に居住するサツスン財閥が即ちそれであ

る。

又サツスン財閥と浙江財閥の關係に就て拙著「これが支那だ」を読むならば明確となるであらう

二、日露戦争とユダヤ人

今次の支那事變は或る意味に於ては滿洲事變の延長であると言ふ事が出来る。更に滿洲事變は日露戦争の異つた延長だとも言ふ事が出来る。而かも今次事變の背後にユダヤ人の暗躍してゐることは見のがせざる事實であり、又日露の戦争にもユダヤ人が日、露兩國の背後にあつて別々の面より投資してゐた事も事實である。

日露戦争にユダヤ人が如何なる關係を有してゐたかは當時の關係者ならよく知るところであらう。日露戦争の當初に於いて我國で外債募集に當つた時に、アメリカのユダヤ財閥が銀行團の中心人物ジェコブ、シツフが日本の外債十四億を一手に引受けた更に日本の勝利を益々確實にした露西亞第一次革命（一九〇五年）の資金を調達したのも彼等である。而して又一九一七年のボルンエヰキ革命の資金の大部分も彼等ユダヤ財閥より出されてゐることは明白な事實である。而しながら日

露戦争當時にユダヤ財閥が日本のみ絶大の好意を持つて外債を一手に引受けてくれたものと考へる事は大きいなるあやまりである。

當時佛蘭西に於けるユダヤ財閥は、時の露西亞の大蔵大臣ウエツテの極東政策を授け即ち滿鮮の地に日本と衝突せしめ、英米ユダヤ財閥は日本を援けて露西亞に打撃を與へしめる計畫を樹てたものである。

勿論日露戦争兩國の關係は切迫は長い間續けられたが、其の間ユダヤ財閥の暗躍は活潑に行はれユダヤ人ルツツアチの言に依つて其の経緯が窺はれる事が出来る。

其の一端を述べるならば、元伊太利國務大臣であるユダヤ人の彼ルイシ、ルツツアチは十數年前彼の回想録の編輯を終つた彼は其の回想録出版に先立つて其の斷片を雜誌に發表した。伊太利の外債借替に當つての佛蘭西政府とロートンルドの他のユダヤ金融財閥家との暗躍が明らかにされた。

ジャン、カレールは一九二三年一月七日のタン紙に回想録よりの挿話を通信した、之に依れば日露開戦に當り、露佛兩國政府の要人よりも、ユダヤ銀行家が早くから其の開戦の確實性を知つてゐたのである。ルツツアチは曰く

「日露開戦數週間前に開催されたニース會議に於て、デルカツセは余にペトロスブルグ政府より來賓として日露間の平和確實なることを告げた、併し速刻余は歸國してロートシルド佛蘭西よりの電報を受け取つたが、之に依つて日露關係の危機を知つた、ユダヤ金融財閥家は注意深い一國の外相よりも能く國際情勢に通じてゐることが知れるではないか云々」元の伊太利の大臣の驚愕には理由がある。彼は國家の元首よりもユダヤ人の指導者が内外の情勢に通じてゐることを知つてゐた。

故に彼は事態を豫見し利益を得るために前以つて適當な手段を講ずることが出来たのである。

日露戦争の勃發に依つて前述の如くシツフが日本の外債十四億を一手に引受けユダヤ金融財閥の世界政策實行にのり出したのである。之に就へて田保橋潔氏は「明治外交史」に於て次の如く言つてゐる。

「日露戦役の國際資本戰に於いてユダヤ財閥の演じた役目は頗る重要である乃ちアレクサンドル三世即位以降ロシア國內に行はれた、慘虐なるユダヤ人迫害に激昂したフランス金融界の巨頭男爵アルフォンス・ド、ロートシルドはロシアに對する金融を拒絶し（後に日本の戦債を引受を承諾した）又ドイツ系ユダヤ人にしてアメリカ金融界の巨頭たるクーン、ロエブ商會社長ジエコフ、ヘンリイ、

シッフが、従前日本國政府と何等取引關係がなかつたにも拘らず戰債募集の爲に行つた時の日銀副總裁高橋是清に對し二千五百万弗の外債引受を申込んだるは特筆に値するものであらう)

彼はまた言ふ

「注意を要するのは、交戰國を繞る國際資本戰は兩口共に國內に蓄積せられた。資本は貧弱で主として外國資本即ち日本は英、米兩國に露西亞は、佛蘭西に依頼した兩交戰國に戰爭資金を供給した國際ユダヤ資本家は又背後に於いて互に握手してゐた事は明白である戰局の發展するに伴ひ、英米資本家は、日本國財政當局に戰勝を機會に速かに戰局を收拾し、講和に當つて過大の要求を提出るべからざるを忠告し、フランス資本家はロシア國政府首腦部に對して、敗戦と擾亂に資金を供給するの危險を注意し、速かに無益の抵抗を斷念すべきことを警告し寧ろ半命令的にした」

而してシッフは日露戰爭に當つて日本に軍資金を供給することに依つて日本とユダヤの同盟を結ばんとした。處が米國は、賢明な日本は猶太人の野心を悟りユダヤ人との關係は純然たる通商と金融に限つたと云ふ事を信じてゐる。而し當時賢明な日本人がはたして存在してゐたかは疑問とされる。

其の直後全アメリカに漲る排日思想を見る時に其の排日思想の中心こそはユダヤ人保護を目的とする諸團體、猶太人同志會、全米猶太人同盟などであるに至つてはそこは何ものかゞ存することは明白であらう。

ここに至つて、ユダヤ資本家は國際的に握手し、露西亞に投資し、又日本にも投資し國際的戰爭利益を自由に支配してゐた。而しながら其の又反面の當時の露西亞に在住するユダヤ人實に六百万と言はれてゐたが、それらの解放の爲と「ユダヤ露西亞」建設の爲に、日本を助け露西亞を敗戦に導くべく革命を起させるに至つた。即ち日露戰爭終末頃に當時の革命家レーニン及びトロツキー等の暗躍となり遂に一九一七年に革命軍の勝利となり現在のソヴェート聯邦が建設せられたものである。勿論レーニン、トロツキーはユダヤ人であることに間違ひはない。

日露戰爭の全面的財源と戰爭工作にはユダヤ財閥の暗躍のあつた事をはつきりと知らなければならぬのである。

三、ユダヤ人化の國際聯盟

ユダヤ民族は其の世界的金融機關を通じて、時には秘密的となり時には又公開的に國際的な色彩を持ちあらゆる機關を通じて、彼等の活動範圍を野心的に展開してゐる。其の公開的、國際的な表れが國際聯盟となつて現出せられたものである。

しからば國際聯盟は如何なる形式に依つてなつたかと言ふに一九一八年一月八日米國の上院議院に於て時の大統領ウィルソンは世界大小各國の獨立を保全し、將來の世界平和を保つ爲と稱する十四箇條の提出をし以つて國際聯盟を作つたものであるが、而しながら之は表面的のものである。

其の後同年九月二十七日、即ち休戰條約の六週間前に紐育の會議に於いて、ウィルソン大統領は補充五箇條を提議した、これは世間に餘り知られてゐないが、非常に重大なものでマックス、デ、ゾード公が英國の樞密顧問官になつて以來此の五箇條は平和會議の基本として主張されたものであるしかもこれは國際聯盟の目的をはつきりと表明し、聯盟が實行すべき主義と規程とを高調してゐる

一、昨日の敵も全てに對し同等の正義を――

一、國家的利己主義と特權化の禁止――

一、秘密同盟に依る國家間の團結の禁止――

一、經濟的ボイコットの禁止―

一、國家間の秘密條約の禁止―

以上は五箇條の基本となるものである。

國際聯盟と云ふ超國家的思想が平和會議の中心決議として採用されてゐる今日ではあるが、聯盟の原則と聯盟を組織しやうとする陰謀とは歐洲大戰中既に聯合國内にあるユダヤ秘密結社の會議で論ぜ決定されてゐたのである。

國際聯盟成立の内幕を知れば聯盟に英米的猶太人が勢力を張る様になつた理由も明白であらう。ロージェ、ランブランは「猶太人の勝利」中に次のやうに言つてゐる。

「世界猶太同盟、英國猶太協會、英國猶太代議士會の三つが、聯盟の成立の爲に手段を講じた英國猶太協會と英國猶太代議士は協力して一八七八年伯林公會の際にジョイント、フオリン、コミツテなるものを組織した。此の會の理事はルシアン、ウォルフであるが此の會が歐洲大戰當時非常に重大なる役割を演じたることは推斷するに難くはない。

一九一九年一月猶太協會の聯合大會が巴里で開かれた。熱辯は代表の間に飛んだ。ルイス、マー

シヤルに指導される米國のユダヤ人は、露西亞系、波蘭系のユダヤ人は意見を異にしてゐたのである。併し「平和會議に派遣すべき猶太人代表者會」を創立することに意見の一致を見ることになつた。此の「代表者會」は公式の役割も有せず、公の評議に加はることは出来なかつたが完全にウイルソン大統領、ロイド、ジョージ及びクレマンソーを自由自在に操つてゐた。此等三人の大政治家の周りには言ふまでもなく多數のユダヤ人の傀儡たる政治家が取巻いてゐた」

而して又ランブランは瑞西のユダヤ機關紙イスラエリテイシエス、ヴォヘンブラットを引用して次の如く言つてゐた。

「猶太人は協議して強い勢力を行使した、ウイルソンもロイド、ジョージも其の力を拒むことは出来なかつた」と

又ユルバン、ゴイエは言ふ

「猶太人が獲得した平和條約の附帶的結果は國際聯盟である。國際聯盟は、世界征服に對する數千の計畫を包容する大きな目論見を完成せんとするユダヤ思想の實現である」故に國際聯盟は決して時の米國大統領ウイルソンの創作ではない。フリーメイソン員であつたウイルソンが秘密結社か

ら此の思想を受けた事は世界戦争の原因」を著したアンリ・ドウラシユ師が言つてゐる。

而して國際聯盟機關内には、永久機關として、聯盟事務局が組織せられ國際政治上の重要な役割を演じ、からくりの作用を確實にし一大權力を行使するものは事務局なのである。故に事務局の終身官吏は大使よりも高い地位にあり最も報酬の多いものである。

事務總長であるエリツク・ドラモンド卿は實にユダヤ主義に對し忠實にデモストレーションを行つてゐる。彼が事務總長としてジュネーヴに赴任した即日に同市のユダヤ教大法師ギンスブルガーを訪ね、ユダヤ民族に對する尊敬と獻身的努力と信念を披瀝したる事實を見ても明白ある。

故に國際聯盟がユダヤ民族の利益を絶對的に守る爲に各種の手段を講ずることに今更驚くことはない。故に事務局の椅子は勿論彼等同族或ひは、ユダヤの息の掛つた人物に占められてゐる事は次の表を見ることに依つて明白であらう。

ドラモンド

聯盟事務總長

(英國ユダヤ人)

アブノール

同 事務次長

(佛蘭西ユダヤ人)

ハース

同 交通部長

(佛蘭西ユダヤ人)

ライヒマン

聯盟衛生部長

(波蘭ユダヤ人)

マントウー

同 政治部長

(佛蘭西ユダヤ人)

ソルター

同 經濟部長

(獨逸ユダヤ人)

コンメン

同 宣傳情報部長

(ユダヤ人)

マダリアーガー

西班牙代表

(西班牙ユダヤ人)

イーマンズ

白耳義代表

(白耳義ユダヤ人)

ペネツシュ

チエツコ代表

(チエツコユダヤ人)

レーゼ

佛蘭西代表
故ブリアン秘書

(佛蘭西ユダヤ人)

はれてゐる)

(アブノール次長が總長に就任し其のあとにアスカラーテ(ユダヤ人)が事務次長となつたと言
あるルシアン・ウォルフは次の如く言つてゐる。

一九二一年一月十六日ロンドン西區シナゴグの會議の時に英國ユダヤ團の最高の師長の一人で

(一) ユダヤ民族は出来る限り方法を盡して國際聯盟を支持しなくてはならない。

(二) 吾等は聯盟の成功に最大の關心を持つものである。

(三) 聯盟は吾等の最も高尚なる最も聖なる傳統と調和するものである。

(四) 聯盟はユダヤ人問題の最も都合好き解決を吾等に與へるものであり、吾等が最も大なる關心を持つものである。

(五) 聯盟の將來は固より確固たるものである。

以上の説述によつて國際聯盟は明白にユダヤ民族の野望と利益の機關であることが知れるであらう。歐洲大戰はユダヤ人のからくり、に引掛つて勃發しその講和が又ユダヤ人の支配下になりそして生れ出でたるものが國際聯盟である。

著者（林貞四郎）は今より六、七年前明治大學の學生時代にすでに日本が國際聯盟を脱退しなければ將來に重大なる問題が起ると叫び卒業直後に「汝は日本人なるや」の著書を世に出したる其の一節に明示してゐたものである。

而るに今日、日本とドイツが脱退したるや當任理事國としてソヴェートを迎へて遂に彼等ユダヤ

人スタッフの意圖は物の見事に暴露せられたものである。

今日ソ聯邦の實勢力こそユダヤ民族の手に完全に支配せられてゐるものである。

今次事變に對し總ゆる機關を通じて國際聯盟は蔣政權を支持し來つたる理由もここに於て自から明白となることであらう。

フランス、スペイン、支那等を舞臺としてコンミユニズムと資本主義的自由主義の連繫を圖るいはゆる人民戰線の結成への道はこの聯盟に加へた工作が早くも導火線であつたことを今にして思ひ當るのであらう。抗日人民戰線化の蔣介石政權の長期戰は、今や明かに人民戰線の一大實踐と武器商品の大量的消化により其の莫大なる利益に大満足するユダヤ財閥の存する事は見のがすわけには行かない。

更に國際聯盟の對支技術員の派遣こそ、國際聯盟を構成するユダヤ財閥の支那に於て行はむとする擄取事業の工作機關以外に何ものもない。

彼等技術者の研究機關の費用の出道を調べると明白となるであらう。即ち此の費用こそはユダヤの國際資本財團に依つて支給せられてゐる事が何よりの證明でなければならぬ。

今や國際聯盟をあやつる人形師ユダヤ財閥は長期戦を利用し完全に支那を食ふてしまふであらう。今にして日本皇道の世界宣布をなし日滿支の共存同榮の新東亞協同體を作らざれば、國際聯盟の美名の基にユダヤ財閥の完全なる勝利となるであらう。ここに於て特に吾人は國際聯盟とユダヤ人の關係を説述するに至つたものである。

四、ソ聯の實權を占めるユダヤ人

今次支那事變は今更論するまでもなく「ソヴェート支那」との戦ひであることは明白である。

しからば、支那をして思想的に赤化せしめ「ソヴェート支那」たらしめてゐる。根本のソヴェートの現勢力の中心機關、即ち權力者の中核を見るに總てがユダヤ人によつて占められてゐる。今革命の當初を思ふに一九一七年二月二十七日革命なるや政治均衡は失はれ、三月三日皇帝ニコライ二世は己むなく皇弟ミハイル大公に讓位せんとしたところ大公はこれを辭退した。そこで新しい露西亞の運命はルヴオフ・グーチコフ・ミリューコフ・ケレスキーを中堅とする假政府が出来、此の帝政露西亞の崩壊した最大の原動力は國際ユダヤ人の勢力によつたものである。幾多の證明が雄辯に

物語つてゐる。

露西亞滞在十八年と言はれ露西亞通と言はれた英國陸軍のアレック・ブロクター大尉は次の如く言つてゐる。

「露西亞革命は決つして一般民衆の仕業でなかつた其れは全くユダヤ國際全權と其の手先の仕事であつた」

革命はユダヤ人によつてなされ而して中堅假政府よりレーニン時代と變りレーニン時代になるやユダヤ人は續々と重要な地位に就くことになつた。

一九二〇年のソヴェートの支配者の人名録と高級委員の當時の表は次の通りである。

(尙又レーニンの時代は一九一七年より一九二二年の間續いたものである)

	總員	ユダヤ人	×
人民委員會	二二	一七	七七、二
軍事委員會	四三	三三	七六、七
外務委員會	一六	一三	八一、二

財務委員會	三〇	二四	八〇、〇
司法委員會	二一	二〇	九五、〇
教育委員會	五三	四二	七九、二
社會救助委員會	六	六	一〇〇、〇
勞働委員會	八	七	八七、五
ハルシエヴィキ赤十字	八	八	一〇〇、〇
地方委員會	二三	二一	九、一〇
新聞記者	四一	四一	一〇〇、〇

通 稱

レーニン
トロツキ
ステクロフ
マルトフ

本 名

ウーリアノフ
ブロンスタイン
ナハムケス
ゼデルバウム

國 籍

母系のユダヤ人
ユダヤ人
同
同

ジノヴィエフ

カーメネフ

ダーセフ

スハノフ

ラジエヌキイ

リトヴィノフ

コロンタイ

ラヂツク

アフエルバウム

ローゼンフェルト

ドラヅキーン

ギンメル

クラツシユマン

フィンケルスタイン

ゾーベルソン

同

同

同

同

同

同

露人

同

レーニンの死後は四人の政治家が権力を争つた、四人とは誰れ誰れかと云ふにジョルジア人である。スターリンを初めとして三人のユダヤ人即ちジノヴィエフとカーメネフとトロツキーである。一九二二年より一九二五年の間三年半程はジノヴィエフとカーメネフとスターリンの三人組の権勢の時代であつたが一方又トロツキーの率ゐる一團との對立抗争があつた。

而してスターリンとトロツキーの對立は二人の變つた型のボルシェヴストの對立であつた。トロツ

キーは純然たる理論主義者であり、スターリンは實際主義者であり、其の代表であつた。而しながら兩者の共產主義に對する本質は同じであるが方法問題が異つてゐた。

故即トロツキーは先づ世界革命を煽動し其の上で世界的社會主義を足場にして進んで行く事を主張した。此れに對してスターリンは、先づ國內の社會主義を完成し其れを土臺に世界革命を完成しようと言ふのであつた。

ヤダヤ人の大部分はトロツキー側に付いた而し事實の問題としてスターリンは他國に干渉せず國內に社會主義を完成すると云ふ立場を以て勝利を博した。

一九二八年よりスターリンの獨裁が始まつた而し此の間にトロツキー。ジノヴィエフ・カメネフを追放し又復歸せしめたが第二次的地位にをかせられた又スターリンは反對派であるユダヤ人の多數を追放し投獄したがそれは長く續かず、而してスターリン自らがユダヤ人の傀儡とならざるを得なくなつた。

彼の妻は毒殺せられユダヤ人カガノヴィツチの娘を妻にした（一九三四年に二十一才の）而してソヴェートの實權はスターリンとカガノヴィツチとによつて占られてゐるのである。此の二人が世

界陸地の六分の一と一億の人民の上に權力を持つてゐるのである。

而して外務人民委員長はリトヴィツノフ事ユダヤ人ワラツ・フィンケルステインである委員長代理はレチンスキイは露西亞人であるが彼の夫人はユダヤ女である。其の他委員長代理のソコルニコフ（ユダヤ人）とカラハン（アルメニア人）である。

國立銀行の頭取はユダヤ人カルマノヴィツチである。

五ヶ年計畫の中心指導者はユダヤ人キユイビコワである。

外國貿易の指導實權者はユダヤ人のローゼンゴルツである。又農業政策の指導はユダヤ人やコウコフである。

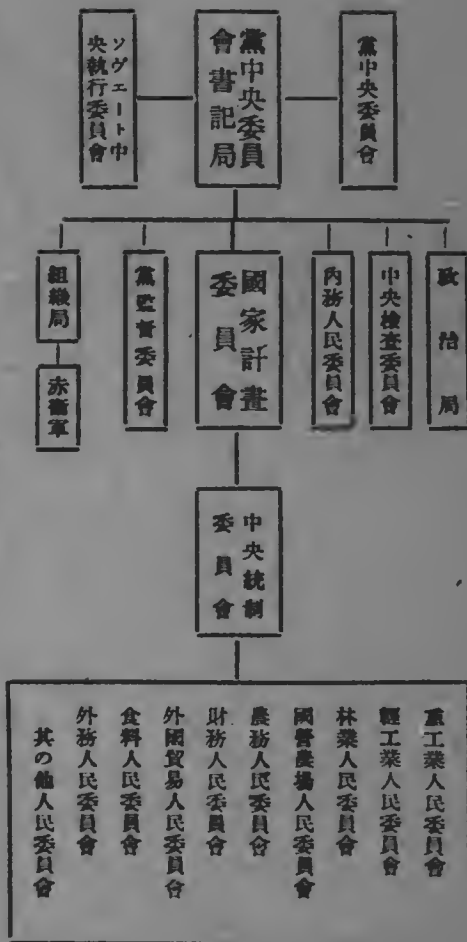
露西亞革命は一大轉換期となつてユダヤ人によつて仕組まれ更に又革命後のソヴェート聯邦の今日又ユダヤ人の掌中に握られてゐる事はあらゆる實證の上に表はれて來てゐる。今ここにその參考としてソヴェート内の實權を發表してみよう。

(尙右の表は公式のものではないが事實に近いものである)

中央委員會 (全員七十一名)

パリツキー(猶)

パウヤン(猶)



ヴァレイキス(猶)

エジヨフ(猶)

ゼレンスキー(猶)

カバコフ(猶)

カガノヴィチ・エル・エム(猶)

クノーリン(猶)

カガノヴィチエム・エム(猶)

リトヴィーノフ(本名メイエル・ヴァラク・フンケルSTEIN)(猶)

ローヴオフ(露)(夫人は猶太女)

リュビーモフ(別名コスレフキー)(猶)

ピヤタコフ(猶)

ノーソフ(猶)

ラズーモフ(別名サゴヴィチ)(猶)

ルインデン(猶)

ハタエヴィチ(猶)

チエードフ(別名アスコフ)(猶)

カミンスキー(猶)

ヤーコヴレフ(別名エプSTEIN)(猶)

オシンスキー(別名オポレンスキー)(露)(夫猶人太女)

ストリフスキー(猶) ウーガロフ(猶)

バヴルーフスキー(猶) ソコルニコフ(別名ブリアント)(猶)

ポロンスキー(猶) ボロイド(猶) 以下畧す

中央執行委員會

カリーニン(委員長)(露)

ミクグキー(同秘書官)(猶)

ペトロフスキー(ウクライナ共和國代表)(猶)

委員長官房秘書局

ウエルピツキー(局長)(猶)

オストロフスキー(猶) シマノフスキー(猶)

總務局

ヤシユタイキン(局長)(猶)

文書課

レシユ(課長)(猶)

ソ聯國內猶太移民委員會

デイマンステイン(委員長)(猶)

トロツキー・バー・イー(猶)

チヨムキン(農業技師)(猶)

コガン・エフ・エム(庶務課長)(猶)

教育顧問

ナロデツキー(顧問長)(猶)

マント(會計課長)(猶)

トヴキン(少年教育課長)(猶)

シマノヴスキーン(レーニン獎學資金委員長)(猶)

國家計畫委員會

メイラウク・ワレリ・イワノヴィチ(委員長)(チエツコ人)

以下十三委員は全部猶太人である。

内務委員会

ヤゴダ(ヤゴダ・ゲルシエル)(委員長)(猶)

フグラノフ(別名ソレンソン)(副委員長)(猶)

ペルルスキー(民軍指揮官)(猶)

ゲ・ペ・ーウ代表

フリードベルク(北コーカサス地方)(猶)

ビレル (小亞細亞)(猶)

ソロニチン(タジキスタン地方)(猶)

クルーコフスキー(ウズベキスタン地方)(猶)

ブルニス(アザルバイスタン地方)(猶)

ラボボルト(スターリン地方)(猶)

スコリンスキー(ヴァイニツァ地方)(猶)

カルルソン（ハルコ地イ方）（猶）

デリバス（極東地方）（猶）

黨監督委員會（定員六十一名）

エジヨフ（委員長）（猶）

以下八重迄猶太人である。

赤衛軍幹部

ガマルニク（參謀長）（猶）

以下副長、課長、政治部員の全部が猶太人である。

赤衛軍司令官

極東軍、ウクライナ軍、極東艦隊司令官、黒海艦隊司令官、コーカサス飛行隊司令官、ヴォルガ飛行隊司令官、バルチック艦隊司令官、ヴォルガ地方軍司令官、北コーカザス地方司令官、以上の全司令官は全部猶太人なり。

中央統制委員會、重工業人民委員會、輕工業人民委員會、林業人民委員會、國營農場委員會

農務人民委員會、財務人民委員會、國立銀行、外國貿易人民委員會、食料人民委員會、外務人民委員會、以上の各委員會の幹部の大多數は猶太人である。

歐米政策第一課（バルカン諸國、波蘭、スカンディナヴィヤ方面）

歐米政策第二課（中央歐洲、バルカン諸國）

歐米政策第三課（アングロ・羅典諸國）

東洋政策第一課（近東諸國）

東洋政策第二課（極東諸國）

外務人民委員會内には新聞及情報局がある。尙以上の各課の首腦部は勿論猶太人である。

對外代表部として各國大使館がある。各國の大使及參事官、大使代理書記官、武官及び領事の大多數はユダヤ人である。

以上の如くして今日ソヴェート聯邦の實勢權を占めてゐる者は其の大部分は猶太人である。此の猶太人は國際ユダヤ人と握手し殊に支那事變にをける、ソ聯ユダヤ人の對日抗日人民戰線への背後援助は今更論する迄もない事である。

ユダヤ民族によりて支配せられてゐるソ聯が今後益々支那援助に力を加へ而して日本に對し、次の時代と日本征覇を夢みて暗躍してゐる事に特に我々日本國民は考へなければならぬのである。ソ聯邦に於けるユダヤ民族の發展こそ亞細亞の盟主たんとする日本にとつて最も注意と監視をもつてあたる重大なる殘された問題であると考へるものである。

五、支那に於けるユダヤ人の暗躍

今次の事變に對し如何に英國系ユダヤ財閥團が支那に援助したかは今更論するまでもない事である。今ここに彼等の野望を暴き其の利益の爲にあくなきユダ性を明白にしたいと考へるものである。英國ユダヤ財閥サツスン一家を中心とする在支ユダヤ系米、獨、佛、財閥の協力に依て、支那再投資五十年計畫の大方策が、幣制改革の基礎工事の上に着々として實施され十二年後、上海、香港より南支を横斷しビルマを通り印度洋に抜ける大鐵道を根幹とする中南支開發となり之が計畫通り成就すれば、誠に歐洲の天地を追はれてもユダヤ民族の爲には、世界無比の物資に富む植民地並びにボロイ儲け飽くなき搾取の投資地となつたであらう。而してこれが軍閥の頭首、蔣介石、浙江財

閩の代表宋子文の國民政權に結びついて、ユダヤ民族一流の策謀を逞しくする時、支那は全く彼等の掌中のものとなり歐米派の天下となり、第二の印度となりデモクラシー人民戦線の東洋制覇の根據地となり日支親善は愚か、彼等ユダヤ財閥は支那をして、皇道日本の永久の敵たらしめ、東洋平和は永遠にのぞまれなくなるであらう。

而しながら事變の進展は彼等の投下した資本と權益に大鐵槌を加へる事に期せずしてなつた事は天裕と言へる可きである。今ここに彼等の計畫を述べるならば彼等ユダヤ財閥はあらゆる機會を利用しその投資計畫を實施せんとしてゐる故に彼等は當然日本の東洋安定勢力を考慮に入れ計畫を實行すべきであつたに拘らずユダヤ民族獨持の排他的宗教思想に災いされた例の如く獨占主義を採用し且つ日本に妨害されざる爲に支那をして極力日本に近寄る事を妨げる日支離間工作を採用したのである。而かもそれに當つては表面は飽く迄日本の協力を冀ふ如きゼスチュアを示し、日本朝野を油斷せしむ恰も日本の助力なく支那幣制改革その他經濟工作はユダヤ財閥と雖も成功しないであらうと云ふ様な宣傳をも行つた。

而も支那に於ける英字新聞を巧みに操つて、日支離間宣傳を支那國民及び上海を中心として國際

的に發展せしめた所これが又彼等の意圖せざる結果を招來し遂に日支武力戰の展開となりたるは自業自得、自ら彼等が資金を供給し購入せしめた支那飛行機に依つて爆撃せられる如き悲境に立ち到つたのは天罰と云ふべきである。

彼等ユダヤ財閥は此れに對してあらゆる威嚇をなし來た、第一に經濟による牽制を行つて來た。

日本の對外爲替に對する工作日本が金現送方針を取りつゝある間はその減少及び爲替の低落を目指し常に操作を爲すと同時に一方これを彼等の國際的宣傳機關を通じて日本に宣傳し、日本財界首腦部を通じて政治上層部を動かし、支那武力徹底擊破主張を牽制し、戰爭中止せしむる様に努力した而しそれも出來ず、又貿易金融關係に於ては例の英國駐支大使ヒューゲツセン負傷事件後特に注目される事はロンドンに於ける爲替決済を漸次取扱はざる如き態度を示して來て間接巧妙に我出先の外交當局及び正金銀行、三井銀行等を通じて威嚇牽制するに努めた。我對外貿易額の七割の爲替手形がロンドンで決済される現狀に於てはこれは實に我國貿易に一大支障を與へるものである。更に又英、米の主要新聞を利用し對日論調を惡化せしめ更に又上海のロイテル及びアパス通信は終始支那の有利日本の不利のデマを飛ばせしめ、特に上海の英字新聞ノースチャイナ・デーリー・ニュス

上海イーブニングポストを盛んに利用して對日惡化宣傳を金の力に依つてせしめたものである。

更に又彼等は英國より英國勞働黨總務のユダヤ人ネケルを上海に招じ來り支那の要人と面談せしめ特に上海ユダヤ財閥の巨頭連と連絡をとらしめて徹底的に日本を苦境に陥れる或る種の策動をせしめた。又これと呼應して上海クリスト教團を動かし更に英米本國のユダヤの各團體に排日運動を促進せしめたる事實は今日明白となつて來たのである。

ここに反日ユダヤ團體をあげるならば次の諸團體がある。

上海ユダヤ俱樂部、ユダヤ通商研究會、上海ユダヤ機務總會、ユダヤ改進黨、ユダヤ民族擁護同盟、オルトオツ協會、秘密結社のブナイ・ブリス、ユダヤ支那人協會、ユダヤ慈善協會。

以上が其の代表的排日反日の各種團體であるが、此れ等の諸團體の大部分は、ユダヤ財閥の聲がかりであり其の支配下にあつて猛烈なる排日を作つて支那援助に全勢力を集中してゐるのである。

更に上海ユダヤ財閥を列記するならばイー・デイ・サツスンを始めとして、ヅキクター・サツスカドリー、ハードン、エブラ、トルイ等の此れ等ユダヤ財閥團は事變前迄は上海を本據として蔣介石援助に全勢力を集中してゐたのである。勿論上海のみならず香港の經濟界及び新聞通信關係と共

に交通機關も彼等の指導に依つて左右せられてゐたものである。

更に上海に於いて發行する外字新聞の資本は其の全部がユダヤ資本であり編輯する記者もユダヤ人であることに特に注意すべきである。

彼等ユダヤ財閥は金融機關を初め言論機關其他各種團體を其の支配下に置き、對日國際關係を惡化せしめ、經濟的不安を増加せしめ日本國內の各種勢力の分裂離間を目掛すの以外には何ものをも犠牲にせんと計畫し實行し對支援助を行つてゐる。

故に我日本國民は舉國一致して戰爭目的遂行に總てをあげて其の實勢力を調べ經濟國防思想の整備確立と其の對策に今一段の努力と其の國民的自覺を必要とするものである。

六、世界線上のユダヤ人

今日世界の各線上にユダヤ人が表はれ今やユダヤ人に依つて世界の政治も經濟も文化も科學も支配されつつある事は其の好のむと好のまさるとにかゝはらず事實となつて來た。參考の爲に今其の代表的ユダヤ人を列記してみるならば次の通りである。

シャフツベリー伯 初代伯爵ヴィクトリア女王時代の英國の首相

ビーコンスフィールド伯 ユダヤ商人の子に生れ文學に忘れ後政治界に乗り出してダービ内閣

第一次（一八五二年）第二次内閣の大蔵大臣となり一八六五年保守黨の首領に推さる其の後變遷ありて首相となる。

グラットストーン：リヴァプールのユダヤ人商家に生る。一八四三年商務大臣となる其の翌年植民大臣となる。其の後大蔵大臣を數度首相にもなる。

レーディング侯：一八八七年辯護士となる自由黨の闘士となる後検事總長となる更にユダヤ人として英國に於ける最初の大審院長となり一九二一年より二六年迄印度の總督となる。一九三一年マクドナルド首相の舉國一致内閣に一時自由黨の代表として外務大臣となる。

ヘンダーソン：ガラスゴーに生れるダーリントン市長となり後一九一五年文部大臣となる。一九二四年内務大臣となり一九二九年の第二次勞働内閣の外務大臣となる尙又一九三二年軍縮會議々長としてジュネーヴに於て活躍す。

ラムプソン：一九〇三年外交官となり各地の公使となり一九二六年支那の公使となり一九三一年か

ら三二年まで滿洲事變及び上海事變に當り暗躍す。

スノーデン：一九二四年第一次勞働内閣の大蔵大臣となる其後大蔵大臣を數度歴任す。

モンド：英國勞働相

シムプソン：（一八七七一—一九三〇）英國の駐支海關長、支那大統領政治顧問を歴任極東旅行に關する著書あり天津にて支那人刺客に射殺される。

サイモン：一九一三年より同一五年まで檢事總長となる一九一五年内務大臣となる。印度定法の權威者後外務大臣となる。

ドラモンド：初代の國際聯盟の事務總長となる。

以上は英國系政治的のユダヤの代表的人物である。

ウンルソン大統領：ウンルソン研究家に云はすればユダヤの血が流れてゐると云つてゐる。

ハーディング大統領：二十九代の大統領は完全にユダヤ人である。

ルーズヴェルト大統領：完全なユダヤ人。

ストラウス：駐土大使

フエツセンデ：上海工部局長

シンブソン：駐支公使

ブランドス：北米合衆國最高法院七總裁の一人なり。

ベルン：米國財政家

イエツシユーイシドル・スタウス：駐佛大使

ブリット：駐ソ大使

モルデカイ・エゼキエル：米國農務部財務長官

ハーバート・レーマン：ニューヨーク知事

ラ・グアデア：ニューヨーク市長

以上は米國にして此れより佛蘭西ユダヤ人なり。

クレミュー：司法大臣たる事あり。

ミルラン：初め辯護士新聞記者より商工大臣、勞働大臣、首相、外相となりたり。

ガンベツター：内相より一時佛蘭西の獨裁權を握る。

パンルベール―首相、陸相等に歴任す。

クロツク―前大蔵大臣

アブバール―現國際聯盟事務總長なり。

ハース―國際聯盟交通部長で支那政府の顧問なり。

レーゼ―ブリアンの秘書長たり。

ドレスユス―社會黨の大臣となる。

以上の外にオーストリア及びハンガリー等のユダヤ人治家は省畧す。

伊太利では次の通り

ルツアツテイ―一八九六年大蔵大臣たり。

ソニ―男―蔵相を數度、又首相にも二回程なる。

以上の外にチエスコ・スロヴエンスクでは

マサリツク―一九一八年獨立最初の大統領となる。

ベネシジュー―二代大統領なり。

尙又國際聯盟の衛生部長でスペイン代表マダリアーガや支那政府顧問のボーランドのライヒマンや十九ヶ國委員會議長にして白耳義表代のイーマンス等全部ユダヤ人である。

而して更に獨逸系のユダヤ人の政界人を述べるならば次の通りである。

シムソン——一八四八年フランクフルトの國民議會に列しやがて議長に推された。一八四九年四月に首席使節としてプロシアに使した。一八六七年北ドイツ聯邦議會の議長となる。後一八七九年に大審院長となる。

シュテイネス——ドイツ財界の巨頭にして歐洲大戰末期のドイツ首相となる。

シュタール——ミュヘンに生れ獨逸の政治學者として又法律哲學者として世界的に有名であつた。

エーペルト——ドイツ共和國初代の大統領となる。

シャイデマン——印刷職工より新聞記者となり後無所管大臣となり。バイエルン假大統領となる一九二〇年カッセル市長にもなる。

マルクス——今更言ふ迄もなく共產主義マルクス主義の理論と實際との根本原理を全的發表した事はあまりにも有名である。

ルクセムブルク ドイツ革命の女性指導者としてマルクス主義の理論家として有名である。

此の外に「カウツキー」「ベルンシュクイン」「プロイス」「フロインド」「ハイネマン」其他シモン・ブロイセン第一次革命政府の大蔵大臣たり。

ヒルシュと同じく内務大臣たり。

ブツシュと同じく文部大臣たり。

ブラウンと同じく農商務大臣プロシヤ社民黨内閣の首相となる。

ゾルフー一九二一年植民大臣より一九一八年に、外務大臣より一九二一年駐日ドイツ大使として親日家です。

更にロシアに於けるユダヤ人は前頃のソヴェートに於けるユダヤ人の實勢力の頃を読むとわかるレーニン、トロツキー、カーメネフ、ヨツフエ、ステカロフ、ジノヴィエフ、ラデツク、プハリン、ルイコフ、スターリン、コロンタイ、ケレンスキー、モロトフ、ブリュツヘル、其の他は省畧する。經濟的方面よりユダヤ人を論ずるならば今日世界の經濟はユダヤ人によつて左右されてゐるもので今更論する必要は無いと思ふが其の有名な代表的人物を述べると次の通りである。

ロートシルド家―此の財閥の祖先は例の有名なマイヤー、ロートシルドで一八〇一年後は五人の兄弟で長男は本店を次男はウイン支店を三男はロンドン支店を四男はナポリ支店を五男はバリー支店を營み父の遺志を繼いで合名會社として今日英獨、澳、佛伊の經濟的機關を握して世界の金融を支配するに至つた。

ウアンダービルト―ニューヨークに於ける財閥にして合衆國の代表的ユダヤ財閥である。

アスター―ドイツ系のアメリカ財閥であり有名である。

モルガン―モルガンはあまりにも有名で説明を要しない。其の他フリユリング。ゴツシユン。セリグマン。モンターギユ。シュロエダー。サツスン以上は其の代表的ユダヤの世界的財閥である。

次には探檢家の方面では第一にコロンブスをあげなければならない。ヴァムベリー。エミンパンヤ。スタイン。オツペンハイム。ナンゼン。オツベルト。スヴェン。ヘデイン。アンドレー。更に又例の大西洋無着陸横斷に成功した「リドンパーク」更にスエーデンの氣球乗として知られた。アンドレー、而して次に藝術的方面よりユダヤ民族を見る時に、例のオランダ最大の哲學者として世界的であつた「スピノザ」を初めソクラテスの再來と言はれた「モーゼス・メンデルゾーン」にベ

ルグリン」更に又情詩集、散文等の名著を多く世界に残した「ハイネ」更に「フルダ」「ヘンリイ・キングスリイ」「エンゲルス」「グスンツイオ」「ウアツセルマン」「カイザー」「オルベル」「サスーン」「ウアルトン」「ワグナー」更にロシア生れのヴァイオリンの名手の「ジンバリスト」「ソロモン」「リーベルマン」更に映画監督の「スタンバーグ」(ウインに生れ七才の時渡米す)「ルビッチ」「フエアバンクス」「チャツプリン」「ロイド」「キートン」「ガームス」

更に新聞關係では歐米の大新聞は其の大部分がユダヤ人の支配下にある勿論「ハースト」「ロイテル」「アツブルトン」「ハルデン」等は其の代表的人物である。

而して更に科學的分野より即ち物理、化學、數學、法律、醫學等の權威者は特にユダヤ人が多いのである「エディソン」「ハーバー」「アインシュタイン」「アブラハム」「ジユヴァルツシルド」「シユヴァーベ」「リリエントール」「ワイダル」「ナイツサン」「ヴァツセルマン」「フランケ」「ロムブローゾ」「イエリネク」「ガンス」「フランク」以上がだいたい其の代表的人物である。

過去より現在に至る迄更に將來に向つて政治的經濟的に藝術に科學に其の他の方面にユダヤ民族が無言のうちに進んで行く事は明確である。ユダヤ人が世界文化線上にたいすると言ふ事に注意

を持つて今次の事變に對處しなければならぬと信ずる。

七、支那事變に對する國民的眞使命

吾人は多角的にユダヤ化支那に就へて述べたが、對支聖戰の日本的、歴史的、民族的意義の明確なる認識の把握と新東亞建設の國民的なる眞使命に就へて最後に一言したいと考へる。

皇國日本國民の使命は、天壤無窮の皇運を扶翼し奉るにある。この使命は肇國以來一貫して無窮に及ぶ日本民族の鐵則である。如何なる時代と雖も變ることはない。乍併我等はその使命目的たる皇運の様相は時代の進化、變轉に應じて繞みなく推移するものであることを知らねばならない。

例へば明治御維新後に於ける日本の歩みは、永い鎖國の殻を脱して、世界文化を吸収し日本の近代文化への飛躍的發展を遂げるにあつた。このことは直ちに以て皇運の隆昌を意味し從つてそれは當然國民の福祉増進であつたのである。かくて極東の一島國は短日月に世界三大強國の一とはなつたのである。從つて此の時代に於ける國民的使命目的はかゝる意味に於ける日本國家の飛躍發展の爲めに現在文化の生長發展を確保することであつて、具体的には所謂物質文明、個人主義的自由主

義文化の生長發展に努力することにあつたのである。

然るに今や斯る文化は其の内部的矛盾に基く世界的行詰りに逢着して、これを打開しより高度の文化的創建へ飛躍せざれば、遂に崩壊の餘儀なきに至る所の文明的一大行詰りを來したのである。而して其の飛躍的建設が我が皇國日本の手に依つて、支那事變てふ形態に於て着々と進められつつあるのが今日の必然的段階である。

我等國民は、今やこの現實的な歴史的必然に基く眼前の新事態を靜かに、嚴肅に直視体認しなければならぬのである。日本がさきに滿洲事變を直近には支那事變を轉機として、飛躍的大文明創建への巨歩を進め、民族的、世界史的因縁及び創建せんとする思想政治、經濟の所謂文化的大綱を確然として進む現下日本國民は、即ち此の中に皇運の扶翼の現段階に於ける國民的使命目的を求めなければならぬのであつて、それは我等國民の多年生活し作つた。使命目的への袂別即ち現状打破であり更に新たな使命目的への飛躍的發展であり、歴史の必然性は今日これを絶対不可避のものとして要求して居るものであることを明確に認識しなければならぬのである。

日本が、いまや創建せんとしてゐるものは抽象的には「アジアの新秩序の建設」である。そして

この大業の成否如何は直ちに日本民族の興亡を決するものであると同時に、アジア諸民族惹いては世界全人類の興廢を岐つものである。

我が神國日本國民は、この建設的大業を如何なる困難も排除して自己の生命と肉体の負擔に於て完遂しなければならぬ。これ即ち昭和國民に課せられたる所の大使命である。

即ち、今や我等國民は一切の舊き使命目的觀に立つ生活様相を脱却して、かかる新らしき日本の擔ふ新文明創建の翼賛にその全使命目的を置き換へなければならぬのである。即ち今日の日本内部に於ける主として個人主義、民主々義的、共產主義的思想及びそれ等外來思想を基礎とする組織制度を超克して、我が國體の原義に立つ物心一如世界觀、人生觀、國家觀、社會觀、の確立と、それに基礎づけられたる萬般制度組織の建設的改編であり、二君萬民、民君一如の我が國體の社會的具體を意味するのである従つて我等國民の使命はかゝる日本國家の國體的再建を通じて、今次聖戰目的たる道義的東亞共同體建設に一貫するその大業完遂への捨身奉公にあるのである。これを更に具體的に云へば、我等はいまや外に東亞再建の聖戰を戦ふと共に内にはこの聖戰目的の遺憾なき達成を期すべく、ただ利己的、自由主義的立場から、最早既成化して發展を止め、反國家的化したる

現状を固執せんとするが如き、従つてその必然的結果として、聖戰完遂てふ新らしき日本國家の建設の大業を妨害し、又は阻みつつある如き思想作爲乃至は、組織に對して適切有効なる淨化掃蕩をなすことにより、日本國家の建設的意願を達成すべく挺身貢獻することにあらねばならぬのである。我等國民は今日日本國家の皇運隆昌の様相が、疑ひもなく對外的には「道義的東亞協同體の建設」であり、これを完遂し得るもの即ちその原動力の一にかかつて日本自らの「國體的再建」にあることを明確に休認することによつてのみ誤り無き皇運扶翼の國民的使命遂行の行動をなし得るものであることを固く強く確信し行動しなければならない。

乍併云ふまでもなく、このことは前人未踏の極めて苦難の途であるだが、我等は靜かに肇國以來我々の祖先が歩み努力し來つた。皇運扶翼の跡を歴史の段階に於て考ふる時、それは常にこれを苦難と云はば苦難の途であつた。而も我々の祖先は常にこの苦難を國民的忠誠心の一途に於て見事に切り開いて、今日迄の皇運の隆昌を扶翼し率つて、その國民的使命を完遂し來つて居るのである。

我等は、この使命を見事に完遂することによつて祖先に答へ、愈々皇運無窮の隆昌を誇りとしてこれを子孫に渡さなければならぬのであり、此の重大性を特に感じなければならない。そしてそ

ここに輝しい新日本の再建と新アジアを建設しなければならない。

故に我等國民は日本歴史の開拓者となり建設者となり。一切の私心を去つた國體的行動を通じて舉國一体固く強く結び付き滅私奉公の一途邁進しなければならぬ。これが昭和國民の皇運扶翼の國民的使命遂行の途であると確信するものである。

昭和十四年二月九日印刷
昭和十四年二月十一日發行

(定價三十錢)

著作兼
發行人

小林貞四郎

小樽市稻穗町東五丁目五番地

發行所

小樽市稻穗町
北海國民社

印刷所

小樽市花園町
太榮堂双葉印刷所

發賣所

小樽市石竹町
左文字屋書店

電話
二二七五番
一七三六〇番